

平成30年度 学校評価まとめ

(4段階評価)

	評価項目	評価者	H30.12	自己評価 (○成果 ●課題)	学校関係者評価	☆改善策
1	江並中は、授業に臨む姿勢の向上と学習規律の確立に努めている。	保護者	88%	○学習委員会を中心に取り組みを行ったり、1年生の学習委員が3年生のエナスタを見学したりすることで、学習に向かう姿が良くなった。 ●話を聞いていなくても進めてしまったり、声が小さかったり、早口で伝わりづらいことがあったりした。 ●「聞く・話す」の指導にはこだわって指導してきたが、生徒の姿には十分に現れていなかった。	・授業では課題がどの授業も位置づいていた。 ・どの教室も落ち着いた学習態度であった。	・大きな声でできていない場合やり直しを促す。教師が意識する。 ・話し方等については、その値打ちを4月に各教科担任が語る。また可能であれば、授業のモデルが示せるとよい。 ・話し手の反対側に教師が立って、聞こえる聞こえないの確認をする等具体的に指導する場がある。
		生徒	94%			
		職員	100%			
2	江並中は、仲間と共に話し合いや教え合いをして、互いに高まり合える学習集団にしようと努めている。	保護者	89%	○エナG(小集団学習)での深まりという点では不十分なところもあるが、進め方や全員発言などはどの学級も定着してきた。 ○年度当初に職員研修を行ったり動画を見たりしたことで、職員も「これだけは・・・」という意識が高まった。 ●授業のまとめで、書きまとめる時間の確保がやや不十分になるときがあり、授業の時間配分を考えた授業を行うことが必要である。	・授業を見たときに、エナGをやっていたが、あまり意見の言えない子に対して班長が意見を求めている場面で、班長が気遣う配慮があつてとてもよかった。	・「ノートに書く時間」を確保した上での時間の見直しを持って授業を進める。 ・全校研や教科部会などを通して、各教科における効果的なエナG(小集団学習)の位置づけを交流する。 ・各教科のエナGの位置づけを明確にし、教科としての方向を提案する必要がある。
		生徒	95%			
		職員	90%			
3	江並中は、内容が「わかる」「できる」喜びが実感できる授業をしようと努めている。	保護者	86%	○全校研究会を通して、他の先生方のよい点を取り入れることができた。 ○学習のルールが身につけており、仲間の方を向いて発表できる生徒が多かった。 ○数学では答え合わせなどでT2の役割が明確になっており、効果的な支援ができています。 ●仲間と同じような意見だと感じると、挙手に消極的になり、あきらめてしまう生徒が多かった。同じ意見でも自分の意見を発表できる積極性を大切にしたい。	・多くの先生が自信をもち、明確な視点を提示し、見届けをしている。とてもよい。	・「～さんと同じで」や「～さんと似ていて」という話し方を定着させ、自分の言葉で話せるようにする。 ・数学のTT指導のあり方や英語のTT指導のあり方を年度当初に教科部会で討議し、提案する。
		生徒	86%			
		職員	89%			
4	お子さんは、家庭学習に取り組んでいる。	保護者	76%	○提出物を出さなければいけないという意識が定着してきた。 ○教師が確認テストを学習の励みとして活用できた。 ●基礎学習や自主学習は、ページ数を消化するだけで学力に結びつきにくい内容もあった。 ●テスト結果を生徒の学力の実態をとらえ、基礎的・基本的な学習内容の定着に力を入れる必要があった。 ●確認テストを前向きに取り組めるような雰囲気全校でできるとよい。	・家庭学習を定着させる取り組みは今後も継続できると良い。	・生徒が主体的に取り組めるよう学習委員長から放送をかけてテストを予告するなど、具体的な方策をとる。 ・基礎学習のやり方、ノート見本などを4月当初に配布。提出状況をすぐに教科担任から知らせてもらい、やりきらせる指導を徹底する。 ・学習が定着しにくい生徒への支援を行う(プリント学習)。
		生徒	92%			
		職員	82%			
5	江並中は、道徳などの授業やいろいろな行事を行って、他を思いやる心を育てている。	保護者	89%	○学年会もしくは担任同士で、道徳の資料や進め方について話し合っていた。 ○行事などの関わりを意識して、年間指導計画をもとにねらいをもって道徳の教材を設定できた。 ○ハートフル集会などの行事だけでなく、道徳や日常の指導の中でも思いやる心をはぐくむことができた。	・昨年に比べると、教師の評価が上がっている。来年度の道徳の教科化にむけて、校内で研修した成果だと考えられる。	・教員同士で学び合いをする。また、年間計画に従って実施する。
		生徒	94%			
		職員	89%			
6	江並中の生徒は、生徒会執行部を中心に自治的な活動を行っている。	保護者	95%	○生徒会の顧問が計画的に進めて、生徒が落ち着いて準備に取り組み、実施できていた。 ●今年度は特活カレンダー(年間の計画)を作成するはずであったが、途中で止まっていた。	生徒会の発信は、今日の一言であり、生徒会通信である。では、他の先生の発信はあるのか。どの先生も全校に向けた発信がほしい。全職員がその場を持てると良い。	・カレンダーのもとを誰が作るのかを明確にする。 ・文化委員会のお昼の方法の精選。決められた原稿なら的確に読めるよう事前指導する。学力向上には言語環境が大事である。 ・指導部会で提案できないものは実施しない。
		生徒	96%			
		職員	90%			
7	江並中は、集団の一員としてよりよい学級・学校づくりに参画する生徒の育成を図っている。	保護者	92%	○毎回、学年会の始めに生徒の交流をすることができた。また、よい姿・気になる姿ともに日常的に交流できた。 ○全校集会などで特活や生徒指導からの話を聴くことで、タームごとに目標をもって活動に取り組むことができた。 ●全校体制で伝えられたことに対して、十分に生徒が動ききれていないところがあった。	生徒の回答数と教師の回答数が違いすぎる。(教師の厳しい評価)なぜなのか、そのズレをしっかりと吟味せよ。その中で何が問題なのかを見極めよ。	・特別活動指導部の意識を高め、学年会で具体的に提案できるようにする。
		生徒	96%			
		職員	74%			
8	江並中は、一人一人が所属感・存在感がもてる学級集団づくりを進めている。	保護者	86%	○たタームごとの振り返りで学級目標を改めて意識することができてよかった。 ○一人一役を徹底し、どの生徒にも集団の一員として認め励ますように支援してきた。 ●それぞれの委員長は活動計画をたてて提出しているが、それぞれの活動に重なりがあった。	・学年の廊下の掲示は誰がやっているのか。工夫があつてよい。 ・授業だけでなくゆっくりと廊下掲示を見たいと思うほどよい。	・タームの振り返りを有効活用していく。反省会を形式を統一して(生徒会などで決めてもよい)振り返りをさせるとよい。
		生徒	97%			
		職員	95%			

平成30年度 学校評価まとめ

(4段階評価)

	評価項目	評価者	H30.12	自己評価 (○成果 ●課題)	学校関係者評価	☆改善策
9	生徒に自分の生き方を考え、主体的な進路選択ができるための指導を進めている。	保護者	81%	○職業講話や職場体験学習を通して将来を意識できる生徒が増えた。 ○学年では生徒の交流や共通指導ができた。 ○社会に出る上で必要な挨拶の指導は教員で共有できていた。 ●職場体験や講話など、具体的な動きの中で活動はしたが、日常の学習の中で指導したという実感が教師側に薄い。	生徒の回答数と教師の回答数が違いすぎる。(教師の厳しい評価)なぜなのか、そのズレをしっかりと吟味すべき。その中で何が問題なのかを見極めなければならない。	・県のキャリア教育指導「生きる」を年間指導計画に位置づけて活用する。
		生徒	90%			
		職員	60%			
10	江並中の生徒は、基本的な生活習慣が身に付いている。	保護者	86%	○すれ違うと自分から挨拶をする生徒が多く、毎日気持ちがよかった。 ●最終下校時刻は、部活動に限らず相変わらず徹底できなかった。 ●学校生活で、物の自己管理(記名など)を徹底し紛失など未然防止すべきであった。 ●部活動で指導していることが、保護者クラブではやや指導がずれてしまうことがあった。	・トイレのスリッパもそろっていた。 ・生徒の意図を汲んで指導をしてほしい。指導の一方通行にならないように気をつけてほしい。 ・部活動でもあいさつの大切さを学んでほしい。	・下校時刻を過ぎる委員会や執行部は、必ず申し出る。 ・生徒会執行部の「今日の一言」もノートを2冊用意するかプリント式にして早めに準備をし、書くのも昼休みなどにする。下校時刻を守らない例外をつくらない。 ・部活動の顧問がいない場(保護者クラブ)でも部活のときと同じルールで練習することを徹底する。
		生徒	96%			
		職員	70%			
11	江並中は、いじめや問題行動の未然防止に努めている。	保護者	83%	○担任は、アンケートをもとにして、生徒と話をすることができ、生徒の心の動きや悩みをつかむことができた。 ○エナ凄(良いこと見つけ)は、生徒にとっても励みになっていた。 ○いじめアンケートの結果が全校で交流でき、教師全体で実態を把握することができていた。 ○人権集会に向けた準備がしっかりでき、当日は充実した会になった。	・教育相談サポーター制度(相談しやすい先生の登録制度)の導入については、PTAからの要望であり、採用されていてよい。	・相談結果について、学年での交流から教育相談コーディネーター・生徒指導を交えた学年会を実施する。 ・昨年度から「ひびきあい活動」という事前事後の取組を大切にしたものになったため、今後も計画的に(無理のない範囲で)取組を実施していけるとよい。
		生徒	87%			
		職員	90%			
12	江並中は、生徒の命と健康を守る教育に努めている。	保護者	90%	○毎日アレルギーの確認を行った。教室にチェックした献立表を置き、誰でも確認できるようになっていた。 ○保健委員会で歯の健康週間や睡眠調べ、手洗い換気の徹底などの取り組みを行っていた。 ○養護教諭と保健委員会が事前に打ち合わせを行い、さまざまな取組を行うことで健康管理に対する意識が高まってきた。	・個々の健康状態をしっかり把握し、安心安全な学校をめざし、日々緊張感をもって取り組んでほしい。	・現状の取組を継続するとともに、さらに教職員の指導の下、生徒が主体的に活動することで、健康教育を推進する。
		生徒	95%			
		職員	95%			
13	江並中の生徒は、交通マナーを守っている。	保護者	69%	○荷物をきちんとくり、ヘルメットをかぶって自転車使用ができていた生徒が多かった。 ●交通マナーはなかなか徹底できなかった。 ●自転車と並んで走っていることがあり、通行の妨げになることがあると、近隣住民からの苦情が時折電話でかかってくるがあった。	・交通安全については、朝もつと早く立つとよい。先生が立つ頃には生徒はもういない。帰りでは、5、6人の自転車の集団が気になる。一度歩道の手前まで車が来ていて飛び出しそうになり、生徒が戻ったので事故にならなかったが危ない時があった。 ・登下校の交通安全は、命に関わるが、本来家庭、地域の問題ととらえたい。学校が動くことをあてにしているのだろうか。	・交通安全教室のようなものを継続して行う。教員が担当地区の見回りを定期的に行う。(入れ替わり立ち替わり、1人あたりは3ヶ月に1回程度になるように) ・生徒指導や、生活指導部が校門等に立つ。学年主任や副主任は、学年の昇降口に立ち生徒の様子を見届けるようにする。
		生徒	95%			
		職員	47%			
14	江並中は、保護者や地域の意見・願いを聞く姿勢をもち、誠実に対応している。	保護者	87%	OPTAの活動や、学校・学年行事に、とても前向きに学校に関わってくださる保護者が多く、大変助かった。 ○日頃より保護者と連携し、良いことも悪いことも情報共有するなど、連携を密にしている。	・職員、保護者とも意識がかなり高いのは、とても良いことである。信頼感を前提に安定して学校経営が行われていることがわかる。今後も常に保護者の意識をとらえながら対応してほしい。	・部活動については、複数顧問にしていくことが、生徒にとっても教師にとっても大切なことである。複数配置を実現していく。 ・HPの掲示板は担当が定期的にアップすることができていたので、継続していく。
		生徒				
		職員	90%			
15	特別支援教育について支援体制を整え、個にあった指導をしている。	保護者	82%	○担任の指導上の悩みにも、特別支援コーディネーターが親身に相談に乗っていた。 ○特別支援学級や特別支援の生徒たちが、多くの先生や仲間から日々支えられていると実感した。成長が感じられ、多くの生徒が元気に過ごすことができていた。 ○学習の充実⇒体育、数学、理科、英語などにおいて(なかもA)、生徒が確実に分かった・できたを実感したり、楽しい・やりたいと感じている。(振り返りや、会話より)	・支援を必要とする生徒は多様化している。それぞれのケースに対応することは大変だが、細かな配慮を今後もお願いしたい。	・ほほえみ教室での過ごし方のルールをきちんとし、さらに原則学年に準じた学習の充実を図る。 ・多くの職員が特別支援学級に授業に入ると理想だが、今後は、職員の持ち時間数とのこともあり、難しいかもしれない。
		生徒				
		職員	89%			